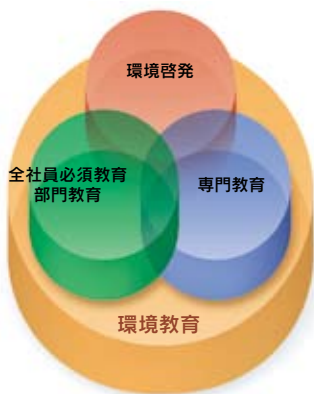


地球市民としての自覚をもち、自ら環境経営を推進できるよう社員の育成に取り組んでいます。

全員参加の環境経営を実りあるものにするには、トップの意思表示や各部門での積極的な活動はもちろん、一人ひとりが自らの業務で環境経営を実践していける社員の育成も重要です。環境経営は企業としての活動ですが、実際は社員一人ひとりが行っている活動だからです。リコーグループには、全世界で約82,000人の社員がいます。社員の意識の持ち方によって、同じ活動でも、その成果は大きく異なってきます。「地球市民」「リコーグループの社員」、そして「環境経営を推進するためのスペシャリスト」として、社員が成長していくための教育・啓発活動を行っています。



意識調査に基づいた教育施策の展開 《リコーグループ／日本》

環境経営を実現するためには、社員一人ひとりの環境意識が重要になります。リコーグループでは、「環境意識が高い」ということは、環境に関する知識をもち具体的な行動もともなっていることであると定義しています。自らの業務の中に、

環境という視点を自発的に取り入れ、実践することができる社員の育成を目指し、定期的な社員の環境意識調査に基づいて、環境教育・啓発のためのさまざまな施策を実施しています。2006年度は、国内のリコー社員を対象にした「環境eラーニング・初級編」の実施や、環境経営を紹介する小冊子の配布を行いました。

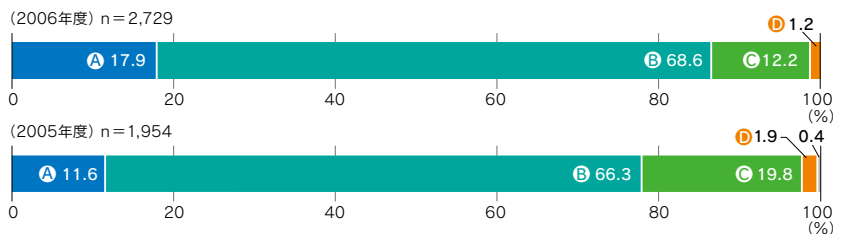
2006年度リコーグループ環境意識調査の実施

2005年度の調査結果をもとに、リコーグループ社員が環境に関する知識と行動力をどの程度もつべきかについて目標を設定し、教育カリキュラムを作成、実施しました。2007年2月の調査では、その効果が検証できました。教育の重点においたのは、「環境経営の理解度向上」と「自身の業務が環境にどの程度影響しているかの理解度向上」でした。これらの設問に対して、前年と比較したところ、結果に大幅な変化が見られ、教育施策の明らかな効果が確認できました。今後は、職種別や部門別の教育カリキュラムづくりを行っていく予定です。

2006年度調査結果（抜粋）

① 「環境経営」という言葉とその具体的な事例についてどの程度理解していましたか？

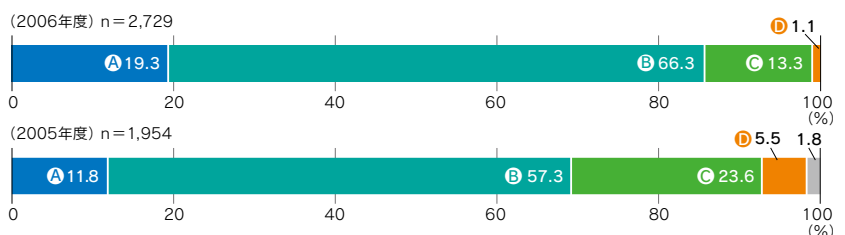
- A 人に説明できる程度に十分理解している
- B だいたい理解しているが人に説明できるほどではない
- C 言葉は知っているが意味はあまり理解していない
- D 知らなかった



前回との比較 A、Bを選んだ社員が78%→87%と大幅に上昇

② あなたは、あなたの職場の活動が環境へどのような影響をもたらすか、どの程度理解していますか？

- A どのような影響があるか大まかに理解し、一部定量的に把握している
- B 関係はわかっているが定量的な数字まではわからない
- C なんとなく関係が想像できる
- D 考えたことがない



前回との比較 A、Bを選んだ社員が69%→86%と大幅に上昇

一般社員教育・部門教育

社員向け環境eラーニング・初級編
《リコー／日本》

2006年度、リコー社員を対象に、社内LANを通じて学習するeラーニング・初級編「環境経営ははじめの一步」を実施しました。内容は、「地球環境の現状」「地球環境問題における企業の使命」「リコーグループの環境経営」「各部門で行われている活動事例」などで、環境経営に対する理解と意識を高めることを目的に行われました。今後は、英語版カリキュラムによる海外グループ社員への実施と、各部門の環境活動推進担当者を対象にしたeラーニング・中級編の企画・展開を予定しています。



社員向け環境経営小冊子の配布
《リコー／日本》

環境eラーニング・初級編を修了した社員を対象に小冊子「みんなの環境経営」を配布しました。この冊子は、環境経営報告書の内容をコンパクトにまとめたもので、4コマ漫画などを利用して、わかりやすくリコーグループの環境経営を紹介しています。社員だけでなく、家族にも読んでいただくなど、環境経営の環を拡げるツールとして活用しています。



リコーグループ環境経営大会
《リコーグループ／グローバル》

2007年2月、リコー大森事業所で「第13回リコーグループ環境経営大会」を開催しました。今回のテーマは、「環境経営の深化」。これまでの環境経営の成果についての振り返りや今後の方向性、環境行動計画の進捗状況の説明などが行われました。また、「第5回 リコーグループ環境経営活動賞」の表彰式も行われました。改善活動部門大賞は、リコー福井事業所の「コージェネレーションシステムの導入と燃料転換による環境負荷削減活動」*1、製品搭載技術部門大賞は、サーマルメディアカンパニーの「RECO-View® ICタグシートの開発」*2となりました。 [*1:38ページ](#) [*2:27ページ](#)



リコーグループ環境経営大会の様子

欧州環境大会
《リコーヨーロッパ／欧州》

2006年6月、オランダ・スキポールで「欧州環境大会」を開催しました。欧州極15カ国27社の販売会社・生産会社から環境・リサイクル担当者49名が参加し、環境・リサイクルの方針発表や状況報告、環境マーケティング、使用済み製品の回収、CO₂削減活動についてのグループディスカッションなどが行われました。また今回は、参加者が使用する交通機関や会議場の電気使用など、大会開催にともなって発生するCO₂発生量を削減するために、会場を欧州のほぼ中央に位置するアムステルダム・スキポール空港の

近くに設定しました。その結果、CO₂排出量は昨年の27.5トンから11トンと半分以下になりました。さらに昨年同様、植林によってCO₂排出を相殺し、実質的な排出量をゼロ（カーボンニュートラル）にしました。



欧州環境大会の様子

エコチャレンジの開催
《リコーラテンアメリカ／中南米》

中南米の販売統括会社リコーラテンアメリカは、2001年から販売会社の環境経営を促進するためのコンテスト「エコチャレンジ」を開催しています。エコチャレンジでは、ISO14001の認証取得、回収・リユース・リサイクルの仕組み構築、環境配慮型製品の販売促進、環境社会貢献などについて審査が行われます。2006年度は、リコーコスタリカとリコーエルサルバドルが表彰され、アメリカの生産会社リコーエレクトロニクスの工場見学に招待されました。ごみゼロなど高いレベルの環境保全を行っている工場を見学することで、今後の活動の展開にいかしてもらうためです。リコーラテンアメリカでは、このコンテストを通じて中南米の販売会社の、環境経営を強化していきます。



リコーエレクトロニクスでの工場見学

環境啓発

親子自然教室の実施

《リコーグループ／日本》

リコーとC.W. ニコル・アファンの森財団の共催による「第5回リコー親子自然教室」が7月22、23日、長野県黒姫にあるアファンの森で開催され、リコーグループ社員と家族24名が参加しました。この教室は、親子で森に入り、自然の大切

さを体感してもらうことを目的に行われているものです。参加者は、夜の森を歩くナイトハイクや、子どもだけで森を探検する子供探検隊などを通し、自然のさまざまな植物や生物に触れる機会を楽しみました。



自然教室に参加したリコーグループ社員とその子どもたち



ヨーロッパ

モビリティウィークに参加

《リコーグループ／欧州》

欧州のリコーグループは、2006年9月16日～22日に開催された「ヨーロッパモビリティウィーク」に参加しました。これは、環境負荷の少ない交通手段の利用促進により温暖化ガスの削減を目指すイベントで、欧州委員会*がスポンサーとなって、2002年から毎年開催されています。欧州のリコーグループでは、より積極的に貢献するため全販売会社に啓発ポスターを掲出し、さまざまなイベントを開催しました。リコースペインやリコーノルウェーでは、公共交通機関など環境にやさしい手段で通勤した社員に賞品をプレゼントしました。リコーネーデルランドでは、エコドライブコンテストを

開催。また、リコーヨーロッパでは238名が自転車通勤や徒歩など環境負荷の少ない通勤を行ったほか、オフィスビルのエレベーターの一部停止なども実施し、期間中に約1,000kgのCO₂排出を削減しました。 * 欧州連合(EU)の行政執行機関。



停止中のエレベーター

専門教育

環境関連講座の開催

《リコーグループ／日本》

環境経営を推進するためのスペシャリストとして、それぞれの職場で、環境に配慮した物づくりや、適切な化学物質の管理を行えるよう、LCAやリサイクル対応設計などの環境関連講座を実施しています。

環境関連講座(受講者数)

講座名	2006年度 受講者数(人)
ライフサイクルアセスメント(LCA)(基礎)	17
ライフサイクルアセスメント(LCA)(応用)	8
サプライ製品安全(初級)	26
サプライ製品安全(上級)	38
環境関連法規	91
騒音(基礎)	36
リサイクル対応設計	31
OA機器における熱設計	19
リコーグループ製品含有化学物質 マネジメントシステム(概要)	26
合計	292